

令和8年度 北九州市立沖田中学校経営方針

校長 安部朋恵

1 学校教育目標

『一人一人が生き生きと輝き、心身ともに健やかで、自立心を備え、学び続ける生徒の育成』

2 めざす生徒像・教師像・学校像

【生徒像】 思いやりの心を持ち、自ら考え、正しく判断し、行動する生徒

協働して学び、深く考え、探究する生徒

健康・安全を心がけ、運動に親しむ生徒

【教師像】 使命感と専門性を高め、わかる授業を創る教師

生徒理解を基盤に特別支援教育の視点をもち、組織で協働する教師

人権尊重の精神を基盤にどの生徒にも公平で、信頼される教師

【学校像】 明るく活気があり、生徒・教職員が安心して生活できる学校

清潔で落ち着いた環境で、清新な生活ができる学校

互いの人権を尊重し、差別やいじめのない学校

3 学校経営の重点(新規・強化点)

(1) 確かな学力の定着

- ① 授業改善の深化 「子どもが主語」の主體的・対話的で深い学びの一層の浸透。
- ② AI型アプリの活用 計画的活用と家庭学習・復習習慣の確立
- ③ 読書活動の推進 「学校まるごと図書館」を柱に、読書が日常化する環境の整備

(2) 心身の健康増進と心の育ち 生徒支援と安全・安心

(3) 小中連携・地域連携 沖田中校区全体での子どもの育成

(4) 研修・業務改善 GIGA 端末・校内 ICT 環境の整備と活用促進

(5) 教職員のウェルビーイング 心理的安全性の担保

4 目標達成のための具体的方策

(1) 確かな学力の定着 ① 授業改善の深化

- ・ 単元ゴールの明確化と振り返りの質向上
- ・ ユニバーサルデザインの授業設計
- ・ 言語活動を要にし、発問・板書・机間指導・少人数指導、協働的学習等の指導方法を工夫
- ・ 評価と指導の一体化を徹底し、信頼される評価を実施
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体化

(1) 確かな学力の定着 ② AI型学習アプリの活用

- ・ 計画的な導入 4～6月＝初期設定・操作習熟、7月＝授業内活用・形成的評価、8～12月＝家庭学習での定着、1～3月＝弱点補充と成果検証。
- ・ AI型学習アプリを活用した家庭学習の習慣化（学年目安の提示、保護者共有）
- ・ 朝自習時間を活用した「10分読書+α」とAIドリル（復習）を学年ごとに週計画化。

(1) 確かな学力の定着 ③ 読書活動の推進

- ・ 教室前・廊下・空きスペースに読書コーナーを設置し、本を手に取りやすい環境を整備
「学校まるごと図書館」
- ・ 読書交流の機会（ビブリオバトル、おすすめ本紹介、学年間交流等）の拡充
- ・ 市立図書館・地域との連携

(2) 心身の健康増進と心の育ち

- ・ 保健体育の授業における体づくり・補強運動の継続
- ・ 教育相談の計画的推進
- ・ いじめの早期発見・対応
- ・ 特別支援教育の推進
- ・ 薬物乱用防止・防災減災教育・性教育・スクール救命士講習等を計画的に実施
- ・ 人間関係づくり（子どもつながりプログラム）、特別活動・総合的な学習の時間の充実
- ・ キャリア教育、SDGs学習の推進

(3) 小中連携・地域連携

- ・ 小中合同による学校運営協議会の定着
- ・ 中学校区ミーティングや小中合同研修で生徒及び教職員の小中連携を円滑化
- ・ 小中連携行事への主体的参画

(4) 研修・業務改善

- ・ すべての教職員が学校運営に参画・連携し、校務を分担
- ・ 人権・生徒理解・学力・体力向上・若手育成等の校内研修を体系化
- ・ 生徒指導委員会、いじめ問題対策委員会、特別支援教育推進委員会等の機能強化
- ・ 心理や福祉の専門家（SC、SSW）との連携
- ・ 外部の関係機関（教育支援室、子ども総合センター、放課後デイサービス、警察機関等）との連携
- ・ 文書標準化、行事後の事後検証、次年度への確実な引継ぎ

(5) 教職員のウェルビーイング

- ・ 心理的安全性をつくる「4つの因子」に則った良好な職場風土の醸成
”話しやすさ” ”助け合い” ”挑戦” ”新奇歓迎”